

平成22年度事務事業評価シート(平成21年度分)

予算科目	会計	一般会計	001	款	03	項	02	目	02
事務事業名	地域児童健全育成推進事業(放課後児童クラブ)								
担当部署	健康福祉部児童家庭課	403000	電話	0187-63-1111			内線	102	

◆事務事業の位置づけ

総合計画の体系	施策の柱	安心して健やかに暮らせるまちづくり
	施策の大綱	子育て支援の充実
	施策	児童健全育成の充実
	施策の内容	放課後児童クラブの充実
根拠法令等	児童福祉法 大仙市放課後児童健全育成事業の実施に関する規則	

◆計画Plan

事業の目的 (何のためにこの事業を行うのか)	保護者が仕事等で昼間家庭にいない児童に、適切な遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図る。
事業の対象 (事業の対象となる人、物など)	両親その他の保護者が仕事等により昼間家庭にいない小学校1年生から3年生までの児童
事業の内容 (具体的にどのような活動をするのか)	①児童の安全確保及び健康管理並びに情緒安定のための活動 ②遊びを通じた児童の自主性、社会性及び創造性を向上させるための活動 ③児童の遊びの状況の把握及び家庭への連絡 ④その他児童の健全育成上必要な活動 【設置箇所】大曲地域7、各総合支所地域7
事業の成果 (どのような成果を期待するのか)	保護者が安心して働くことができるとともに、児童の安心で健全な育成を図ることができる。

◆実施Do

項目	名称	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度
活動結果 (事業の活動量を測る)	① 放課後児童クラブ数	カ所	16	14	14
	② 指導員数	人	32	32	32
	③				
成果 (事業の成果を測る)	① 放課後児童クラブ利用児童数	名	317	423	434
	②				
	③				
投入コスト	決算額		56,236千円	63,072千円	64,176千円
		一般財源	30,663千円	39,230千円	32,841千円
	人件費		3,568千円	3,568千円	3,524千円
		一般職員の年間従事人数	0.5人	0.5人	0.5人
		一般職員以外の年間従事人数			
	総コスト	(決算額+人件費)	59,804千円	66,640千円	67,700千円

事業を取り巻く環境	保護者の就労等により利用児童数が年々増加の傾向にあるが、小学校に空きスペースがないことや、活用できる施設が近くにないこと等により、希望者全員が入所できない状態にある。平成22年度から新規開設や児童クラブの分割を行い、更に4箇所増設となり18箇所になったが、大曲地域においてはまだ待機者がいるため、今後も計画的に待機児童の解消に努める。
-----------	---

◆評価Check

評価項目		評価	
必要性	①【市民ニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていませんか	A 薄れていない B 薄れている	A
	②【市が実施する必要性】 市が実施主体となってこの事業を行うことは妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	③【計画上の位置づけ】 事業の目的を達成するための手段として妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	評価の理由	核家族や共働き家庭が常態化し、民間の施設が不足していることから市が主体となって放課後児童クラブを運営していくことは必要不可欠である。	
有効性	①【成果】 活動結果に対し事業の成果は順調に上がっていますか	A 上がっている B 上がっていない	A
	②【活動内容見直しの余地】 事業の成果をさらに向上させるため、事業内容に見直しの余地がありますか	A 余地はない B 余地はある	B
	評価の理由	指導員については、保育士、教諭資格のある者の他、児童厚生指導員の資格を取得している者や、児童厚生指導員資格取得のために受講することを条件としている者を採用し、充実した事業を実施できる。 今後、待機者の解消や適切な開設場所の設定が必要になっている。	
	③【他事業との統合・連携】 他の類似事業との整理統合や、関連事業との連携は可能ですか	A できない B 可能である	B
効率性	指定管理者制度を含む民間委託等により、コスト削減できませんか	A できない B できる C 指定管理導入中	A
	③【人件費の圧縮】 適正な人員配置(従事職員数、臨時雇用等)により、人件費を削減できますか	A 削減できない B 削減できる	A
	④【コストの縮減】 上記以外の方法で、事業の成果を維持しながらコストの削減、またはコストを増加させずに事業の成果を上げることはできませんか	A できない B できる	A
	評価の理由	公設公営の他に、公設民営形態をとって運営している箇所が3箇所ある。 利用児童はここ数年増加する見込みであるほか、特別支援の児童や気になる子などの入会に備えた適正な人員配置が必要であり、急激なコストダウンは無理があると考える。	

◆改善Action

総合評価 (今後の方向性)	改善策	評価の理由 今後の改善策等(いつ、何を、どのように)
改善	A 現状のまま継続	大曲地域のいちょう児童クラブ及びびぼら児童クラブについては、希望児童数が多いため施設の拡充が必要である。 利用負担金の口座引落は、利用者からの要望が多いことから早期に実現したい。
	B 改善しながら継続	
	C 拡大	
	D 縮小	
	E 廃止	